



和泉の活性化考えたい

たなか そうま
田中 想馬さん(和泉中2年)

学校の児童・生徒は23人です。昨年、3年生の授業で先輩たちが、地区の活性化のために特産物を使った料理をふるまい、和泉を全国にアピールし、観光客を呼び込む案を発表しました。この取り組みは、とても大切だと強く感じ、今年も私たちが和泉のためにできることは何かを真剣に話し合ってみたいです。また、記事には地域の人のさまざまな声が掲載されています。私たちが地域の人と協力していくとともに、これから自分の古里について学び直し、そこから課題を見つけ、私たちにできることはどんなことか考えていきたいです。



「県内の郊外団地 岐路」という記事を見て、住宅団地(ニュータウン)で起きている「8割が空き地」「夏祭りの開催が困難」などの現象について知り、残念な気持ちになりました。というのも社会科の学習で「少子高齢化」「過疎地域」について学んだことを思い出したからです。

私が住んでいる和泉地区は少子高齢化が進み、和泉小・中